

令和2年度 愛心こども園 事業実績報告

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

事業の総括

はじめに、令和2年度4月愛心保育園から幼保連携型認定愛心こども園へと名称を変えて心も新たに元気よく産声を上げスタートしました。今、希望に燃えてスムーズに1年目を締めくくることができたいへん喜ばしく思っております。そのような中で今振り返ってみますと、この4月で創立39周年を迎え歴史の積み重ねの尊さをしみじみ感じているところです。これからも初心を忘れることなく、厳しい保育界の時代の変化に即対応できるよう、保育界の動向を見極めつつ、常に意識改革を念頭において日々、誠心誠意取り組んでまいりたいと考えております。また、当法人は時代の大きな変革の中にあっても、決して押し流されることのないようにこれからも揺るぎない信念をもって取り組んでまいります。また、保育の資質向上を図るうえでは、職員一丸となって園内外研修等についても精一杯の努力を注いできており、その他、特別保育事業である延長保育や一時保育・地域活動事業等の運営にあたっては、保護者からのご要望にお応えしての事業を展開する等、熱い信頼を得ることができたと同時に、子ども達の心に寄り添いながら令和2年度も充実した内容ですべての事業に取り組むことができました。

ところで、いつも（愛心、第2愛心、仲井真こども園）3ヶ所の園がひとつの法人として心がけていますことは、時代の流れに沿って教育・保育制度の行方も見据えながら、地域の子育てセンターとして子どもの視点に立ち、更に全国の認定こども園や保育園に先駆けて取り組んでいる思いやり保育の実践認定園として当法人は誇りを持ちながら「手伝う行動・励ます言葉・ありがとうの心」を展開し、道徳教育の一環としてこども園とご家庭が三位一体となって同じ子育て目標を共有しつつ、温もりのある教育・保育実践を行っているところです。これからも愛する子ども達の大切な命と限りない可能性を育むために、当法人の教育・保育理念である「保育は愛なり・愛は力なり～入所するすべての乳幼児の最善の利益を図り、個としての人権、人格を尊重する」という尊い思いを理念として掲げて取り組んでまいります。更に、教育・保育目標には「元気で明るい子ども」「思いやりの深い子ども」「個性豊かで自分らしく生きる子ども」「自分で考え、意欲的に行動する子ども」など、明るく元気で瞳輝く子どもの成長を目指し、本年度も取り組むことができました。

また、当園の特色である音体教育、お習字教育、漢字遊び、英語で楽しく遊ぼう、体操教室等を創立以来38年間継続し実践してきており、その結果「しなやかでたくましく元気で明るい子どもの育ち」に大きく寄与できていることも嬉しく思っております。

このように創立以来、全職員が心をつなげて今日まで取り組み、設立 38 年の尊い歴史を積み重ねてまいりましたが、職員の子ども達に寄せる対応等も愛情が惜しみなく注がれ、力強い中にも柔軟性に富み、その成果は着実に実を結んでおります。その事は子ども達の日々の教育・保育活動にもしっかりと現れており、活気と喜びに満ち溢れています。また、安全管理及び環境整備、食育への取り組み、職員の処遇改善、更に資質向上に向けたキャリアパスを含めチューター制度など職員が働きやすい職場を目指して取り組み、事業計画に沿ってスムーズに進められましたことを、ご報告申し上げることに喜びと幸せを感じており、感謝の気持ちで受け止めております。

尚、令和 2 年度も例年通りこども園独自で、保護者アンケートを年 2 回実施致しました。その結果についても、教育・保育方針や理事長をはじめ、園長、職員の保護者に対する対応等 95%を超える多くの保護者様にご満足いただいていることを確認することができました。それは職員の日々の努力が報われていることを素直に心に受け止め、全職員喜びをかみしめており誇りに思いながら、次年度に向けた大きな励みとなっております。

そして職員一同、これからも尊い児童福祉の心をしっかりもって、子ども達の心に寄り添い、保護者の子育て支援についても更に信頼と安心感を寄せてもらえるよう、尚一層力を注いでまいりたいと熱い思いを寄せております。

それが地域に根ざした児童福祉施設としての当法人の大切な役割であることをしっかりと心に受け止め、私共職員の使命として肝に銘じ、令和 2 年度の事業実績報告とさせていただきます。

令和2年度 第2 愛心こども園 事業実績報告

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

事業の総括

「認定こども園」としてスタートをきった令和2年度でしたが、「新型コロナウイルス感染症」という未曾有の事態に翻弄された1年になってしまいました。

4月から5月にかけては、特別保育や登園自粛など、多くの保護者の皆様にもご協力をいただき、子どもたちの登園数が少ない中、職員も交代で在宅勤務や教育保育の質を高めるために必要な専門書を読んでの自主研修等、出来ることを考え工夫しながら新年度の2カ月を乗り切りました。

6月頃からは、各クラスの子どもたちもそろい始め、にぎやかな声が園内にも響くようになりましたが、日常の保育や各行事が例年通りには出来ない状況の中、いろいろと試行錯誤しながら見直しを図り、また職員は、マスクをしながら子どもたちと関わる上で、表情や声が伝わりづらく、もどかしい日々の中、職務に奮闘しました。

更に当園でも、9月にコロナの罹患者が初めて発生し、保健所や那覇市こども教育保育課の指導を受けながら、5日間の休園措置と大規模な消毒作業等を行い、職員の頑張りや保護者の皆様のご協力、行政の支援をいただきながら乗り切ることができましたが、身近でそのような状況になったことで、コロナについての対応をはじめ、医療現場の厳しい状況以外にも、保健所の業務もひっ迫している中、担当職員の皆様が丁寧に対応して下さっている姿に頭の下がる思いでした。

もうしばらくは続くであろうコロナ禍ですが、世界中の人々がそれぞれの置かれている状況の中で、意識と責任を強く持ちながら、明日を信じて自らができることを引き続き頑張っていくしかないということを心にとめていきたいと思えます。

令和2年度、コロナに見回れた1年になりましたが、そのような中でも玉重福祉会の基本理念である「思いやり保育」～手伝う・励ます・ありがとう～の心を基本に据えて、「保育は愛なり 愛は力なり」という保育理念のもと、1号認定児の子どもたちも15名迎え、地域の子育てセンターとして、常に子どもや保護者の視点に立った、温もりのある保育実践を職員一同、精一杯行ってまいりました。

また、各研修においては、年度初めに中止になる研修もありましたが、オンライン研修が増え始めて、職員は園内で学びを深めることができ、キャリアパスの研修も同様に7つの分野に5名の各リーダーが研修を受講することができました。

キャリアアップの仕組みがスタートし、職員の処遇改善も前年度以上に上がってきている中、各リーダーをはじめ職員がやりがいを感じながら、安心して働き続ける職場づくりの構築を目指し、更に日頃から子ども達のより良い成長のために、保護者支援にも奮闘している職員が、高い使命感と希望をもって保育の道を進みながら、個々の努力が評価され、将来に希望が持てるようなキャリアアップの仕組みが構築されつつあると思えます。

また、取り組みを始めてから7年目となる、“チューター制度”については、職員マネジメンتریダーの役割を担う職員が、パートナー決定や時間調整等を行い、年3回の取り組みを実施することができました。保育教諭の確保がますます厳しくなっている現状の中、現在頑張っている職員が生き生きと意欲をもって職務にあたり、働きやすい職場づくりにも力を注いでいけるような取り組みのひとつとして、成果が得られたと思います。

そして、今年度も当園の特色である漢字遊び、お習字、英語で遊ぼう、食育活動及び、毎月の行事等、子どもたちの教育保育に関することは、実施方法や内容など例年同様にはできませんでしたが、大きな行事である音体教育のステージドリルは運動会や生活発表会で発表し、ビデオを撮り、全世帯に配布したことで、多くの保護者様に喜んで頂きました。

通常の活動も全職員が気持ちをそろえて日々取り組む中で、職員の子ども達一人ひとりに対する対応も愛情を惜しみなく注ぎ、個々の自主性や個性を尊重したうえで、しっかりとした指導計画を立て教育保育を行ってきました。

更にその他、安全管理、環境整備についても事業計画通り進めることができ、特に消毒作業については、日々の消毒と毎週土曜日の一斉消毒等、各職員で分担し丁寧に行うことができましたことをありがたく思っております。

令和2年度は、歴史にも記憶にも残る1年になりましたが、根本的な部分としては地域の子育てセンターとしての役割をしっかりと認識しながら、地域に根差した児童福祉施設としての使命を果たせるよう、職員一同福祉の心をもって、子どもたちとそのご家族のより一層の幸せを願って、日々努めてまいりました。

これまで以上に多くの皆様に支えられたことを実感し、温かく見守っていただきながら、おかげ様で無事に令和2年度を終えることができましたことに、心より感謝申し上げ、事業実績報告と致します。

令和2年度 仲井真こども園事業実績報告

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

事業の総括

開園3年目を迎えた仲井真こども園は、4月1日時点での子どもの受け入れ人数が、4歳児が25名、5歳児が65名、合計90名でスタートしました。職員につきましては、園長の玉村隆をはじめ、保育教諭は副園長兼務の1名を含む10名、保育支援員2名、事務長、調理員、用務員が各1名の合計16名の職員にて今年度の教育保育運営を実施しました。

今年度においては、新型コロナウイルス感染症予防対策として、入園式も各クラスに分散して行いました。4月は、こいのぼり掲揚式や各クラス担任による、玄関先での家庭訪問を実施しました。しかしながら、5月に予定していた、「春の遠足」や仲井真小1年生と合同での「親子交通安全教室」が中止となりました。その後も、感染予防対策をしながら、6～7月には子どもたちが楽しみにしている、「プール開き・水遊び」を行いました。小学校のプールは使用できませんでしたが、園舎の中庭にミニプールを設置し水あそびを楽しみました。8月に予定していた「夏まつり」は、「秋まつり」として9月に行いました。11月の小学校との合同運動会は中止となりましたが、こども園だけで「ミニ運動会」を行い、その様子をビデオで撮影しDVDを保護者へ配布しました。また、生活発表会でも小学校の体育館をお借りして、観客無しの中、子どもたちは、リズムダンスやエイサーなど頑張って発表してもらいました。その様子もDVDに録画し保護者へ配布したことで、感謝の声も頂きました。

このように、令和2年度は、「新型コロナウイルス感染予防対策」として、出来る範囲で工夫しながら行事等を実施してきました。それでも保護者の皆様には、物足りなさやご不満もあったかと思いますが、3月の「卒園式」にて66名の年長児が晴れやかに卒園を迎えることができ、一人ひとりの成長の喜びを感じながら、令和2年度を締めくくることができました。

それから、仲井真こども園としては、初めての「沖縄県福祉サービス第三者評価」を受審しました。7月の職員への説明会、利用者アンケート調査から、9月の訪問調査、10月のフィードバックまで約4カ月間の取り組みでしたが、その間は、職員同士で学び合い、共通理解を深めることができたことは、良かったと思います。評価結果につきましては、別冊「結果報告書」をご覧ください。

そのように、開園3年目もベテラン、中堅、新人の職員それぞれが、自分の役割をしっかりと担い、工夫を凝らし努力しながら、お互いに協力し合えたことで乗り越えられたと思います。職員には深く感謝しつつ、子どもたち、保護者、職員がもっと笑顔になれるよう、また、地域の方たちとの交流も大切にしながら、今後とも努力を惜しまず事業運営に取り組んで参りたいと思います。